

ムーグイイングアシュアイ  
穆桂英掛帥

ぼく けい えい げん すい  
穆桂英元帥となる

文 武

★★★★

上演時間★2時間30分

### 基礎知識

『楊家将演義』に題材を得る。1959年梅蘭芳が河南省の豫劇の同名作品を脚色したもので、演技に独自のアレンジが加えられた梅蘭芳晩年の傑作。

### 主要人物

ぼく 穆桂英……老旦(刀馬旦)  
余太君……老旦  
楊文広……武小生または武旦  
王 倫……花臉

### あらすじ

宋の時代、西夏が侵攻してきていた時、既に第一線を退いていながら依然として国家の情勢に眼を向けていた余太君（楊家の初代元帥楊継業の妻）は、曾孫の楊文広と曾孫娘楊金花を町に潜り込ませ、軍事の動向を探らせます。すると当時の兵部尚書(国防部長)王強は自らの息子王倫を元帥に据え、その機に乗じて軍を手中に収めようとしていました。また、それに対抗して大臣寇準が依然として楊家の將軍を推挙しており、校場(練兵場)での決闘の勝者を元帥にするよう提案していました。そこでは王倫が連戦連勝でしたが、そこへ、文広・金花らが校場に登場、王倫を一刀両断。宋の皇帝は彼らが楊家の人間だと知ると、二人に皇帝の玉印を持たせ家に帰し、穆桂英(楊家第二代元帥楊六郎の妻)に元帥としての対西夏戦への出征を要請します。しかし、穆はもとより皇帝から冷遇されていたため、朝廷に貢献しようなどとは思わず、逆に文広が玉印を軽率に

受け取ってきたと責めます。そんな彼女に佘太君は、今は個人的な恨みよりも国家を考えると諭し、穆は元帥として出陣することを決意します。

### みどころ

文武の両方と、「唱」「念」「做」「打」の揃った珍しい作品です。一家全員が宋の将軍であった「楊家」では、女性もまた武術に長けていました。度重なる戦争で亡くなってしまった男たちに代わって、宋の国を守っていたのが楊家の妻たちだったのです。美しい衣装で着飾った、彼女たちの激しい立ち回りが見物です。

穆桂英



楊文広